

2014年 11月 2日発行



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時
Web URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

大豊作！老いも若きも総動員！



(上) 10/16 附属小5年生
(中) 10/ 9 富士塚小5年生
(下) 10/ 7 深沢小5年生



秋の変わりやすい天気に一喜一憂した収穫期も、無事に脱穀までこぎつけました。今年は小学5年生を3校も受け入れたため、老若男女のボランティアスタッフはてんてこ舞いでしたが、どっしりした実りを子どもたちと喜び合うことができました。本田の米や、2つの畑から掘り出したさつまいもなどは、秋の谷戸まつりで多くの来園者に振舞います。おいでをお待ちしています。

もくじ

☆各班からのお知らせ→2・3p ☆谷戸の自然だより→4p ☆谷戸往来→p5 ☆谷戸の体験学習→6・7p ☆11～1月の日程表(裏表紙)

お椀、お箸
ご持参を！

鎌倉中央公園フェスティバル第2弾(協働開催)

秋の谷戸まつり開催

11/30(日) 10時～14時(荒天中止) 野外生活体験広場
炊き出し(谷戸鍋・餅・ご飯) 引き換え券頒布開始 11時
展示・紙芝居上演・頒布(新米など)・体験コーナー



10/19 稲刈り



田んぼ班

★11/1(土)、2(日) 脱穀
★3(月・祝) 粃干し・はさ片付け

★ 8(土)、9(日) 粃干し・溝切り・畔の土寄せ
★15(土)、16(日)、23(日) 粃すり・精米・わら切り

10月11日から26日まで、3週間かけて稲刈りを完了しました。

今年は7月の少雨、アズラ（アカウキクサ）の繁殖、10月の台風に邪魔されるなどいろいろありましたが、全体的には天候に恵まれました。稲刈りでは、大束まるきがずっしり重く、豊作を実感できました。今後は脱穀、粃すり、精米と作業を続け、取れたお米は11/30の「秋の谷戸まつり」で頒布します。



畑班

★11/2(日) 小麦の種蒔き・たまねぎの移植 ★9(日) 落花生の収穫・さつまいもの洞入れ★16(日) たのくろ豆の収穫・吊るし・干し★23(日) さといも掘り・洞入れ



9/28 かぶの種蒔き

この秋は2週連続の台風にハラハラしましたが、大きな被害はなく、種を蒔いた大根、にんじん、かぶ、たまねぎは元気に育ち、こんにゃく芋、ごま、さつまいもの収穫を終えた今は実りの秋の真っ只中です。

11月に入ると小麦、大麦の種蒔きから始まり、落花生、たのくろ豆、さといもと収穫が続きます。そして「秋の谷戸まつり」に美味しい谷戸鍋を提供したいと、畑班一同、張り切っています。



雑木林管理班

★11/16(日)、23(日) 雑木林の除間伐

例年に比べ、成長が早いように思われた雑草との格闘に明け暮れた夏が終わり、いよいよ本格的な雑木林の手入れの季節がやってきます。まず10月に立て続けにやってきた台風で倒れた木の撤去を手始めに、雑木林の下草刈り、除間伐、倒木、危険木の撤去、木障（こさ）切り、雑木林成長度調査等を順次行う予定です。



9/28 E畑脇の草刈り



農芸班

★11/28(金) たのくろ豆の殻出し



去年のたのくろ豆の殻出しの様子

昨年の殻出し作業は会員の若いお母さんたちの参加により、トントン、ガサガサ、カラカラとさいづちを打つ音や豆が殻からはじき出る音が賑やかで活気がありました。作業の合間にふとお母さんたちの逞しい背中を眺め、ありがとうございました。谷戸の女たちの底力を見たようでした。

今年も本田脇と小段谷戸に、たくさんの収穫がありました。おいしい味噌作りに向けて「さいづち」を振りたいと思います。



自然遊び班

10/26(日)に第3回・里山探検隊「さつまいもの収穫」を行いました。5月の里山探検隊で植えた苗です。畑班に教わり、皮を傷つけないように丁寧に掘り出しました。ツルの先に連なって実っている姿を見て「こんなふうになっているんだ～」と、驚きの声。お弁当の後は、稲刈りのお手伝い。刈った稲をはさにかける作業を、われさきにと張り切ってしてくれました。野の花で遊び、鳥、虫などの生きものに触れ合いながら、実りの秋を楽しみました。



さつまいも掘り



「はさがけ」のお手伝い

父と子の里山体験

★11/9(日)「伐って、割って、薪作り」

(2歳～小学生までの親子対象
定員 10組)

薪は昔の暮らしに燃料として、
欠かせませんでした。木を伐採し、
薪にする作業を体験します。



去年の様子



生態系保全班

★11/5(水) カヤネズミの調査 ★24(月・祝) 野鳥観察入門
★12/23(火・祝) こども野鳥観察



アオスギアゲハの幼虫

ユーモアたっぷりのイモムシ (写真参照) に出会いました。

稲刈り後の田んぼにアズラがびっしりで、何度も取りましたが、効果はあまり出ていません。どうしたら減ってくるのでしょうか？

バッタやコオロギの調査ではコバネイナゴを観察することができました。このイナゴは、田んぼや湿地がないところで姿を見かけることはありません。田んぼや湿地を保全している意味を感じます。また、調査をしているときに、



9/3 バッタやコオロギの分布



植物育成班

★11/19(水)野草の種の観察
★12/10(水)野草苗の植付け ★24(水) 湿地の保全作業

湿地にミゾソバやツリフネソウがみごとに咲きました。アシやカナムグラ、クズなどを除去するのは大変ですが、かわいらしい花が咲くと「やってよかった」と満足感が得られます。しかし、今



9/24 秋の野草を見る

年は本田のミズオオバコが減った気がします。小段谷戸にも移植を試みましたが駄目だったようです。神奈川県で激減したミズオオバコをどうやったら守れるか試行錯誤していきたいと思っています。



ツリフネソウ

谷戸の自然だより

～生態系から見た、雑木林の手入れの基本 その7～

⑩生態系から考えた草刈りの方法

畑や田んぼの土手は、原則として従来の里山の手入れ方法と変わりありませんが、山崎の谷戸の現場を例にしてみました。

なぜ土手を刈るのか

土手の草は抜かずに刈ることが原則です。刈ることで、草の根が張り、土手の土を押さえてくれます。ワレモコウなど里山で美しい花を咲かせる野草は、刈られることに耐性を持った種類が多く、人間に刈られることで選択的に生き延びてきた植物なのです。

※土手の基本になっているのは、丈の低いササかチガヤです(部分的にはリュウノヒゲなど人が植えたものもあります)。これらがカーペットのように広がり、土を押さえています。ササやチガヤなど基本になる植物の間に、ちらほらと花を咲かせる野草が混じっています。

いつごろ刈るのか

梅雨の頃(6月～7月中旬)に1～2回刈り、冬に1回刈って、落ち葉などを除きます。梅雨時の草刈りは最も大切に欠かせません。この時期はヤマユリ、チダケサシなど梅雨時に咲く野草を除いて、全部刈り込んでも秋までに再生して咲きます。間違って貴重な種類を刈っても根は残っているので大丈夫です。ツリガネニンジン、ワレモコウなどは早めに6月中に刈っておくと、秋に大きな株になって咲きます。トリカブトなどは刈らずに残すとみごとに咲きます。8月半ば～秋に刈ると、秋の野草はあまり咲きませんが、野草の株自体は生き残ります。8月～9月に土手の草が茂って困る場合、花の咲く野草を選択的に残しながら刈ります。例えば、本田近くの畑の土手などカラムシが多い場所は、8月～9月にも刈る必要があります。また、チガヤの多い土手は、8～9月にチガヤが茂っても、貴重な昆虫(ショウリョウバッタモドキ)の生息地になっているので、山崎の谷戸の場合は刈り残す配慮が望ましいことが分かってきました。

※刈りすぎる(月に1回以上)と、チガヤやササなど土手を押さえているベースになっている植物が枯れてしまい、土手が崩れやすくなる(例、小段谷戸の道路よりの土手)

※刈り込みが不足するとクズなどのツル草が増えてしまう(例、炭焼き小屋周辺など)

雑木林と隣接する土手

畑の土手と同じように刈りますが、炭焼き小屋裏の雑木林との境目には、ヤマツツジ、シモツケなど貴重な低木やエビネ、シュンランなど貴重な野草があるので、これらを刈らない配慮が必要です。事前にひもで囲って目印をつけておく準備が必要でしょう。

落ち葉掃きの大切さ

上記のように梅雨時の草刈りを主体にすると、冬も枯草が土手に目立つようになります。このままでは、春に咲くスミレなどは育ちにくいので、冬に刈った方がよいでしょう。また、土手に積もった枯草を堆肥の材料として集めることで、土手の土がやせて、野草の種が発芽しやすくなり、ツル草の繁茂を抑制することができると思われます。

谷戸の裏方⑫ ～足踏み脱穀機～

昔ながらの手作業を律儀に守っている当会の田んぼ仕事ですが、稲の脱穀には、今や人の手足だけではとても及ばず、ガソリン燃料の自動脱穀機を使っています。しかし体験学習に大挙してやってくる小学5年生には、伝統的な足踏み式を使わせたいと、どこかで眠っている機械を探し続けていました。このたび新たな寄付を受けてめでたく古い3台が揃って大活躍。ありがたいことです。





市内保育園の保育士講座を開催 9/6(土)

毎年恒例になった保育士講座が、今年も8園 10 人の方の参加で実施され、子ども達がよく遊ぶ水路の草刈りをしました。午後には鎌倉の自然、谷戸の自然環境、谷戸でのマナーなどの講座もあり、みなさん熱心に聴講していました。【感想】★川が見えてくると、子どもたちが近づいて見ようとするし、入りたくなる。すぐにとんぼが来て、草刈りをした成果を実感しました。(稲瀬川保育園 小池明美)★本日の草刈りで今まであたりまえのように小川で遊んでいたのが、これだけたくさんの人の手を借りて保全されていたんだな〜と、改めて思いました。(大船保育園 永田雅恵)★毎年、親子遠足で利用していますが、教えていただいた事を、ぜひ伝えていきたいと思いました。(山崎保育園 山田浩子)★一昔前の田園風景が懐かしく、そこに住む生き物を見つけ、触れ合ったのは幼少の頃以来でした。(材木座保育園 越原章太)★今回で3回目の研修参加。里山を維持していくこと、自然と共存していく、一手、二手がとても大事だと、毎回強く感じています。(腰越保育園 安藤祐二)



水路は草でいっぱい

水源環境を守る市民団体活動展 「もい・みずカフェ」10/19(日)

この催しは、水源環境、森林環境を守る市民団体 17 団体の活動内容や成果を展示し、一般市民に理解してもらうためのもので、雑木林管理班のメンバーが中心に参加しました。

今回は展示とともに討論会にも参加し、丹沢周辺を中心としたさまざまな地域、さまざまな視点で市民運動がなされていること、また各団体の活動内容、課題等も知ることができ、非常に多くの気づきが得られた一日でした。



市民の方が続々と...

深沢小ふれあい広場、谷戸の収穫物をふるまう 10/25(土)

例年通り、地域を巻き込んでのPTA主催行事に谷戸の収穫物を調理してふるまいました。お餅、さつまいも、味噌汁、いもづるの佃煮 600 人分を用意。今年は谷戸の大豆をPTAの方たちがきな粉に挽いて提供し、長蛇の列でした。お父さん方、先生方の餅つきも迫力満点。子どもたちの餅つき体験も好評でした。

